

平成24年度

地域で決める学校予算事業第1回評価会議 会議録

平成24年8月13日 会議

地域教育課

平成24年度 地域で決める学校予算事業第1回評価会議 会議録

開催日時	平成24年8月13日(月) 10時～11時30分
開催場所	奈良市役所 北棟5階 第21会議室
内 容	<p>○ 開 会</p> <p>1 評価委員の委嘱</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 評価委員自己紹介 および 事務局紹介</p> <p>4 委員長・副委員長の選出</p> <p>5 平成24年度の事業について</p> <p>6 文部科学省大臣表彰の推薦について</p> <p>7 その他</p> <p>○ 閉会</p>
出席者(委員)	石川 陽委員 藤丸正明委員 岡田龍樹委員 加藤久雄委員
(事務局)	中室教育長 福岡教育総務部長 西崎教育総務部次長 北谷学校教育課長 林地域教育課長(庶務) 地域教育課から8名
開催形態	公開
担当課	地域教育課

議 事 お よ び 協 議 内 容

○ 開会

- 1 評価委員の委嘱
- 2 教育長あいさつ

3年目を迎えますが、1年目は教頭のプレゼンが多く見られたが、最近は地域の方が増えてきている。取組の内容はまだまだ程度の差はあれ、全体としては大きく前進している。コーディネーターも250名から300名近くに増えており、奈良市の教育ビジョンでいう「地域全体で子どもたちを守り育てる体制づくり」の大きな柱になりつつあるので、今後ともよろしくお願ひしたい。

- 3 委員自己紹介 および 事務局紹介

※ 瀬渡委員欠席、藤丸委員遅刻（10時44分入室）。

※ 終了後、中室教育長公務のため退席。

- 4 委員長・副委員長の選出

※ 委員長には加藤委員が選出され、委員長の指名で、副委員長には石川委員が選出される。

※ 会議録の署名委員は、石川委員と岡田委員。

傍聴希望者 なし

◎議事

- 5 平成24年度事業について

・事務局説明（資料①②）

加藤委員長： アンケートP5、課題の77%の18番「弾力的な運用ができない」は、具体的にどのようなことか。また、改善できる見通しはあるのか。

事務局： 昨年は、国費と市費の使い分けに制限を設け、決算書も2通り作成させたためと思われる。今年度は、一本化して対応できるようした。

福岡部長： それはできるのか。分けていたのは、国の対象が決まっているのではないのか。タガが外れたのか。

林課長： タガは、外れていないが国のベースに合わせ、細かい制限を設けずに課内でチェックして対応していく。

加藤委員長： 事務局のほうで対応していただくことにしましょう。続いて、事業内容ごとに計画書作成してとあるが、P13 春日中校区の事業計画書についてはどう思うか。

事務局： 藤丸委員が到着されたので、自己紹介をしていただきたいと思います。

藤丸委員： （自己紹介）

事務局： 引き続き審議をお願いします。

加藤委員長： （藤丸委員にこれまでの審議の経過について状況説明）

福岡部長： 春日中地域の書き方は昨年度と同じなので、P27の三笠中校区のような書き方になるよう、次年度に向けて指示の徹底をするように。

加藤委員長： 議事を進めましょう。

石川副委員長： 申請書の書き方やプレゼンの仕方などは、この3年間ですごく上手くなったし、大変な成長である。学校による格差も出ており、地域教育課の指導も考えていけないといけない。

ここで評価することは、行事やイベントでなく、「地域で決める学校予算事業のしくみ」を通して奈良市の地域教育力をどのように高めるかということである。何を目指しているのかということではないか。

アンケートの結果と、奈良県の学力状況調査の結果とでは明らかに子どもの実態に逆の結果が出ている。奈良県の子どもは、「自己肯定感」が低いという結果であった。学校も地域の教育力を得ながら自己肯定感の向上に努めていかなければならないのでこの取組が一番いいきっかけになると思う。これからは、もう一度この事業の原点に立って、何を高めていくのかを考え直す時期である。幸い、短い期間に体制づくりや自主研修の開催等の取組、コーディネーターの増加や総合コーディネーターの位置づけ、PTAのOBの増加が見られるのは理想なので、行政側の仕組みを見直すことが課題である。

岡田委員： アンケートは、文科省と同調している。学力状況調査では、今までは、「規範意識」が低いといわれていたが、アンケートでは向上しているとされている。双方の関係性については再検討の余地はあるが、数値だけが前面に出るのはどうかと思う。

石川副委員長： 自己肯定感とは、学校の先生に褒められている生徒が少ない。あるいは、家庭で認められていない。

加藤委員長： 実施体制は整備されているので、学校教育のモデルがあるように、地域教育の学びのモデル、奈良らしいモデルを複数考え始めてもいいのではないかな。

石川副委員長： 地域教育と学校教育をテーマに、校長同士のディスカッションを聞いてみたい。

岡田委員： 多様な子どもの存在を多様な視点で理解できるように、地域や教員同士で共有されることが重要。

石川副委員長： 子どもは多様な変わり方のスイッチを持っている。付き合いが少ないとスイッチも少ない。

加藤委員長： 認められる、褒められる機会。

石川副委員長： 子どもは学校で失敗することが少ない。教師も失敗させることが少ない。

加藤委員長： 森とか自然は、生物多様性が必要。学校も生徒の多様性が必要。
事務局から補足等はありませんか。なければ次に移ります。

6 文部科学省大臣表彰の推薦について

事務局説明（資料③）三笠中学校区教育協議会推薦理由の説明

石川副委員長： 推薦書以外に何をつけるのか。

事務局： 「まほろば文化祭」「子ども未来会議」の資料をつける。

石川副委員長： 推薦書をもう少しPRしたほうが良い。

加藤委員長： 推薦書の最初の部分をアピールしたほうが良い。これで議事は終了。

7 その他

石川副委員長： 奈良市として、この事業はどのようにしていくのか。聞きたい。

岡田委員： 奈良県の委員として、奈良県の状況を参考に述べたい。奈良県も推薦（3校）を募集したが、2校しかなく少ない。文科省の委託事業が終了後、地域教育協議会がなくなっているところも多くある。モデル事業を立ち上げ、若草中がモデル事業を受け、校務分掌の中に「地域担当」を設けて、学校の中に地域を取り込んで、教員の地域理解を進めようとしている。（地域が動けど、学校が動かず）今までの動きとは、逆な動きをしているように思われる。奈良市の場合は、地域で決める学校予算事業で、文科省の方針に準じ地域主導でうまく進んでいると思う。この形態で、どのようにして地域学校連携を進めていくかが課題である。

林課長： この事業は、学校教育以外の重要な柱として重点的に取り組んでいる。委託事業が終了する1年前から予算を配当し取り組んできた。その成果で文科省補助事業を受けて続けている。教育ビジョンに沿った事業展開を進めて行きたい。生徒が変わる、学校が変わる、地域が変わるといい循環をつくっていききたい。点から線へ線から面へと広がっていくなかで、学校を核に地域とつながる取組にしたい。

石川副委員長： 質問が2つあります。目的を訊いたのではなく、目標を訊いた。次に学校で解決できない問題とは何か。

林課長： 学校内外の安全管理や規範意識の向上など、学校だけでなく基本的な規範意識の育成は家庭・地域から始めるものだ。

石川副委員長： 地域が活発なところは、学校も忙しいということです。総枠で言うと学校も地域も行政も仕事量は増えている。改めて、アンケート等から課題を洗い出し、見通しを持ち解決すべき課題の優先順位をつけ、なすべきことをそれぞれに明確化して進めて欲しい。

林課長： 一時的には、負担は増えるが、成果が出ていることを学校や地域がもっと理解できるように努めたい。

事務局： 5年間に及ぶ取組で、行政が仕組みを作り、予算もかけてきた。この組織を地域のものとして自立させていける道筋をつけたい。

石川副委員長： 成果を否定しているわけではなく、むしろびっくりするほどの成果が出ていると認識している。

事務局： 教員の理解促進については、今年から管理職以外の研修を計画している。

岡田委員： 行政は、学校を通じてシフトする必要がある。奈良県の場合は、地域に直接アプローチすることは難しい。奈良市の場合は、地域が活性化してきているので、そのエネルギーのやり場の導きを仮称サポートセンター（奈良市教育センター）でつなげていく方法などを考えてみてはどうか。

石川副委員長： 各学校にコミュニティルームをつくるとか。

加藤委員長： ここまでやってきた。奈良市としての方向性やお金の方などもう少し整理が必要。子どもたちの自己肯定感という話があったように「地域の自己肯定感」「学校の自己肯定感」の育成など考えられるのではないかと。研修して身につくものではなく実践する中で身についてくる。やればやるほど、いろんなことを整理する必要が出てくる。もう一度原点に立ち返り進めていきたい。

閉会

諸連絡 事務局： 次回10月開催を予定。